

第 138 回「言葉の院外処方箋」

愛ある者は勇敢 ～ 苦痛に対する思いやり ～

2022 年 12 月 1 日 東京都台東区立松葉小学校で 6 年生の『がん教育』の授業に赴いた（画像 1）。松尾敦校長、若山亜紀子養護教諭、土屋千雅子薬剤師の心温まるおもてなしには、感激した。また、生徒の真摯ある姿勢には大いに感動した。筆者の故郷（島根県出雲大社鶴峠）と『因幡の白兔と大国主命』（画像 2）の物語り【今から約 1300 年前、712 年に編纂された『古事記』に登場する、医療の原点を教えてくれる大国主命の出雲大社から、8 キロほど、峠を越えて美しい日本海に面した小さな村が、私の生まれ育った出雲市大社町鶴峠である。隣の鷺浦地区と合わせて、鶴鷺（うさぎ）と呼ばれている。713 年に編纂が命じられたという『出雲国風土記』にも登場する歴史ある地である。】と【医療の発祥：「最も剛毅なる者は最も柔和なる者であり、愛ある者は勇敢なる者である」とは、「高き自由の精神」を持って医療に従事する者への普遍的な真理であろう。「他人の苦痛に対する思いやり」は、医学、医療の根本である。】と伝えた。

また、【札幌農学校の Stature of William Smith Clark(1826-1886)の『Boys Be Ambitious 「少年よ、大志を抱け」』とその精神を繋いでいる内村鑑三(1861-1930)・新渡戸稲造(1862-1933)】をさりげなく語った。これらの人物を知っている生徒も居り感服した。『風貌を診て、心まで診る』は病理学者心得の実践でもあろう。

先生には資料も差し上げた（画像 4）。早速、若山亜紀子先生から【本日はご足労いただき、ありがとうございました。このような機会に恵まれましたこと、大変貴重な時間でした。いただいた資料を読ませていただき、私も学びたいと思います。】との心温まる励ましのメールを頂いた。大変有意義な貴重な時を与えられた。ただただ感謝である。

がんについて学ぼう

活用の手引（教師用）

生涯のうち、国民の2人に1人がかかると推測されるがんは重要な課題であり、健康に関する国民の基礎的素養として身に付けておくべきものとなっています。

本リーフレットは、小学校学習指導要領（平成29年告示）を踏まえ、文部科学省発行の「がん教育推進のための教材」（令和3年3月一部改訂）及び「外部講師を用いたがん教育ガイドライン」（令和3年3月一部改訂）を参考に作成しています。各学校でがん教育を実施する際、活用してください。

●がん教育とは

健康教育の一環として、がんについての正しい知識と、がんと向き合う人々に対する共感的な理解を深めることを通じて、自他の健康と命の大切さについて学び、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図ります。

がん教育の目標

- 1 がんについて正しく理解することができるようにする。
- 2 健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする。

●学習指導要領における位置付け

小学校学習指導要領体育（抜粋）

6. 保健
- (3) 病気の予防について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 病気の予防について理解すること。
- イ 生活習慣病など生活行動が主な原因となって起こる病気の予防には、適切な運動、栄養の摂り方の正しい食事と、口腔の衛生を保つことなど、望ましい生活習慣を身に付ける必要があること。
- (1) 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、健康を損なう原因となること。

小学校学習指導要領保健体育編（抜粋）

- (9) 生活行動が主な原因となって起こる病気の予防
- 生活行動が主な原因となって起こる病病として、心臓や脳の血管が狭くなったり詰ったりする病病、むし歯や歯ぐきの病病などを適宜取り上げ、その予防には、全身を健やかに運動を日常的に行うこと、水分、脂肪分、塩分などを摂りすぎることや食事や睡眠を適切に保つことなど、健康に良い生活習慣を身に付ける必要があることを理解できるようにする。
- (7) 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康
- 喫煙については、せきが出たり心拍数が増えたりするなどして呼吸や循環のはたらきに対する負担などの影響がすぐに現れること、受動喫煙により周囲の人々の健康にも影響を及ぼすことを理解できるようにする。また、喫煙を長い間続けるとがんの影響があることについても理解できるようにする。

総則では、「小学校教育の基本と教育課程の役割」指導は、児童の発達の段階を考慮して、学校の教育課程に組み込まれ、カリキュラム・マネジメントの視点から特別の教科・道徳等と関連付け、教科横断的に取り

東京都教育委

1



2



3



Master's Lectures - 21

「新渡戸稲造生誕160周年に寄せて」 ～「自分の力が 人に役に立つと思うときは 進んでやれ」～

順天堂大学 名誉教授
新渡戸記念中野総合病院・新渡戸稲造記念センター長
恵泉女学園 理事長
ひ の おき お
樋 野 興 夫
Okio HINO

新渡戸稲造（にとべいなぞう：1862 - 1933）は、農学者、教育者。南部藩士の三男として盛岡に生まれる。札幌農学校に入学し、欧米に留学し、メアリー・エルキントンと結婚、札幌農学校の教授に。英語で『武士道』を出版し、第一高等学校校長などを歴任。『太平洋の橋たらん』との信念を持ち、1920年、国際連盟事務次長に就いた。著書に『新渡戸稲造全集』（教文館）、『新渡戸稲造論集』（岩波書店）などがある。

筆者の故郷【当時の住所名：島根県簸川郡大社町鶴崎（うど）、現在は、島根県出雲市大社町鶴崎】は無医村であり、幼年期、熱を出しては今は亡き母（96歳で逝去）に背負われて、隣の村（鷺浦）の診療所に行った体験が、脳裏に焼き付いている。そして、人生3歳にして、医者になろうと思った。

712年に編纂された『古事記』に登場する、医療の原点を教えてくれる大国主命の出雲大社から、8キロほど、峠を越えて美しい日本海に面した小さな村が、筆者の生まれ育った鶴崎である。隣の鷺浦と合わせて、鶴（う）鷺（さぎ）と呼ばれている。713

年に編纂が命じられたという『出雲国風土記』にも登場する歴史ある地である。その村で、筆者の生涯に強い印象を与えたひとつの言葉がある。母校の鶴崎小学校（鶴崎と鷺浦の中間に位置する）の卒業式で、来賓が言った言葉「ボーイズ・ビー・アンビシャス」(Boys be ambitious!) である。札幌農学校を率いたウィリアム・クラーク（1826-1886）が、その地を去るに臨んで、馬上から学生に向かって叫んだと伝えられている言葉である。もちろん、当時の筆者は、クラークのことも札幌農学校のことも知らず、クラーク精神が新渡戸稲造、内村鑑三（1861-1930）という後に、筆者の尊敬する2人を生んだことも知らぬまま、ただ、鶴崎小学校の卒業式で、来賓が言った言葉の響きに胸が染み入り、ほっと希望が灯るような思いであった。これが筆者の原点であり、そして19歳の時から、尊敬する人物を、静かに、学んできた。その人物とは、南原繁（1889-1974）であり、上記の新渡戸稲造・内村鑑三であり、また、矢内原忠雄（1893-1961）である。



写真1 鶴崎漁港（鶴崎）



写真2 ウィリアム・クラーク像（羊ヶ丘展望台）

(24)

4



上 内村鑑三先生
下 新渡戸稲造先生